

平成31年度 京都市立嵯峨中学校 学校教育目標

京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども

京都嵯峨学園教育目標

地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育を目指す

学校経営方針

よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る

- ① 新学習指導要領への理解を深め、教育活動全般において必要とされる資質・能力の確実な育成を図る
- ② 学びと社会のつながりを重視し、地域の人的・物的教育資源を有効に活用した「地域とともにあら学校づくり」を推進する
- ③ 質の高い教育活動の実践を目指し、教職員のプロ意識の向上を図るとともに、働き方改革を推進する

学校教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、「嵯峨の心」の育成を目指す

嵯峨の心=社会人基礎力（前に踏み出す力、考え方抜く力、チームで働く力）

目指す生徒像

学びと社会とのつながりを尊重する（社会人基礎力の獲得）

- ① 【前に踏み出す力】何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒
- ② 【考え方抜く力】自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒
- ③ 【チームで働く力】多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力する生徒
- ④ 【地域貢献】恵まれた環境のなかで暮らすことに感謝と誇りをもち、地域に貢献できる生徒

目指す教職員像

教育者としての職責を自覚し、専門性を高める

- ① 目指す生徒像の実現のために、妥協することなく生徒と関わり続ける教職員であることを目指す
- ② 自らもキャリアアップのために努力し続ける教職員であることを目指す
- ③ 教育目標を理解・共有し、チーム（組織）の一員として行動する教職員であることを目指す

平成 31 年度 重点目標と詳細

① 新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施（授業改善とカリキュラムマネジメント）

- 各教科における「つながり」を意識した授業の工夫・改善
- 家庭での自学自習の習慣化（振り返りの重視とエスノートの活用）
- 困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施（教育環境整備の重視）
- 「特別の教科 道徳」の実践（重点内容項目… B 礼儀, C 伝統と文化）
 - アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動）
 - 諸調査結果を活かした授業の改善
 - 妥当性、信頼性に基づいた学習評価の実施（評価ソフトの活用、説明責任の実行）
 - 課題解決に向けた補充学習の改善と実施

② 伝統文化教育の推進

- 伝統文化教育推進委員会の設置
- 既存の取組の関連付けと整理
- 指定事業の実施

③ 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実

- 小中一貫教育推進体制の強化
- 9年間を見通したカリキュラムマネジメント（小学校の学習内容の理解と関連の検討）
 - 地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）の推進

④ 働き方改革の推進

- 教職員の意識改革
- 各取組内容の再検討
- 時間外勤務縮減に向けた具体的な取組

平成 31 年度 研究指定

● 国立教育政策研究所指定 平成 31 年度 教育課程研究指定校「数学（1年次）」

① 教育課程全体に係る研究

（ア） 数学的活動への取組を促し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るための具体的な授業の在り方と評価方法等の実践研究（研究の中で、指導内容のつながりを意識した効果的な単元計画や評価計画の開発についても取り扱うこと）

● 京都市教育委員会指定 平成 31 年度「豊かな学びリーディングスクール」推進事業における研究推進校「伝統文化教育」

● 京都市教育委員会指定 平成 31 年度「伝統文化体験（華道・いけばな）事業」モデル実施校

● 京都市教育委員会指定 平成 31 年度「子ども能楽大連吟（仮称）」実施校

● 京都市教育委員会指定 平成 31 年度「政治的教養を育む教育」推進校

● 京都市教育委員会指定 平成 31 年度「自立した消費者を育む教育」推進校